



「気持ち」の勝利

岩川 接戦制す!

スポーツ

バッテリーがけん引

号外



第90回全国高校野球選手権記念鹿児島大会第2日は6月30日、鹿児島市の県立鴨池、鴨池市民の両球場で1回戦7試合があった。
南種子は串良商に競り勝ち、夏の大会としては1985年以来23年ぶりの初戦突破を果たした。岩川は宇都公大、狩川信也バッテリーの投打にわたる活躍などで、強豪加治木工に競り勝った。鹿屋は5点差を跳ね返し逆転勝ちしたほか、れいめい、加世田、垂水、鹿児島情報が2回戦に勝ち進んだ。第3日は7月1日、両球場で1回戦7試合がある。(政純一郎)

1回戦(鴨池市民)

加治木工	100	000	040	=5
岩川	030	000	21x	=6
(加)満園、大久保	市来原			
(岩)宇都、尾園、宇都	狩川			
・本塁打	貴島(加)			
・二塁打	松原、本田(加)狩川(岩)			
・試合時間	2時間22分			

岩川が強豪加治木工に1点差で競り勝った。前和樹監督は「こういうゲームがあるから高校野球球は面白い。このチームは公式戦で1勝もできていなかったけど、最後の夏に何とか1勝したい気持ちがありました」と興奮冷めやらぬ様子だった。千歳の宇都公大、狩川信也主将、バッテリー2人がチームをけん引した。1点リードで迎えた二回裏、内野安打と意表を突くバットに、送りバントで満塁のチャンスを作ると、宇都の打席でカウント2、2からライズ。併殺が怖かったのでスクイズしかなかった。2つなら外されることは

ないし、一番バントはつまみ選手という監督の信頼に依ってライズを決めて同点に追いつくと、炭床拓哉、湯地友和にも連続タイムリーが出て3-1と逆転し、序盤で大きな流れをつかんだ。終盤は加工が地力を発揮し、3ランで1点差まで詰め寄られると、七回で一度降板した宇都が再びマウンドへ、同点に追いつかれたが、その裏、先頭の狩川がチーム唯一の長打を放ってチャンクアウト。一死三塁で実はタイムスのサインを見落としていたけどランチャーが走ってくるのが見えたので何とか返そうと思いつき振りつた。宇都の打球は右前にポトリと落ち、貴重な勝ち越し点となった。最後は前の打席で3ランを打った相手の四番をウイニングボールに打ち取り、ウイニングボールを自らの手でつかんだ。無失策で守り、狩川は2度盗塁を刺すなど、守備の粘りも大きかった。今チーム公式戦初勝利で大きな自信を手にした狩川主将は、去年のNHK旗のように勢いに乗って勝ち進んでいきたいと意気込んでいる。

